

宮沢 仁朗

みなさんは悪夢にうなされ、目覚めてから「夢で良かった〜」と安心する経験はありませんか。この程度の悪夢の影響でしたら問題はありませんが、中には悪夢の最中、大声で寝言を言ったり、手足をバタバタさせたり、暴れたりするなどの行動に発展することがあります。こうした行動をレム睡眠行動障害と呼び、近年レビー小体型認知症の初期症状として注目されています。

レビー小体型認知症とは、まだまだ十分に知られていないのですが意外と頻度は高く、脳の変性疾患で

はアルツハイマー型認知症について認知症原因疾患の約20%を占めており、三大認知症の一つでもあります（ちなみにもう一つは前回の説明した血管性認知症です）。

この認知症疾患の特徴は、病初期から精神症状が起りやすく、記憶障害が

当初目立たないことにあります。目の前に人物や動物などの姿がありと見えたり、壁のシミを生き物と見間違えるような錯覚、意識や注意力が短期間で変動して、ぼんやりして会話ができなくなったり怒りっぽくなったりする認知の動揺が主な症状としてみられます。

気分が落ち込み、意欲がなくなる抑うつ症状は、レビー小体型認知症の約半数に認められます。時には幻の同居人と言って、知らない人が2階で生活している、亡くなった親族が同居

神経がうまく働かなくなり、立ちくらみ、便秘、頻尿、倦怠感などのさまざまな不調を伴いやすく、時には意識を失い倒れてしまう失神に至ることもあるのです。

て、本来あるべき神経細胞が消失することになります。そして精神症状のみならず、病期の進行にともない物忘れなどの本来の認知症症状が出現し進行していきます。

医療・福祉NOW

▶最近悪夢で大きな寝言がありませんか



している訴えることもあります。

身体的にはパーキンソン症候群を伴いやすく、筋肉が硬くなり動かしづらい、動作が遅く鈍くなる、そして転倒しやすい等の特徴的な症状が出現します。自律

このようにレビー小体型認知症では多彩な症状が出現しやすいのですが、その原因はαシヌクレインという異常タンパクが脳内で凝集してレビー小体（発見者の名前が由来です）となって脳のいたるところに出現し

一助となるのです。

この疾患も早期発見・早期治療が効果的です。最近寝言が大きいと指摘されたあなた、鑑別も含め、早めに医療機関にご相談ください。（亀田北病院院長）

以前は診断が難しくアルツハイマー型認知症と誤診されることもありましたが、徐々に疾患が認知され、また診断技術の向上も相まっての確に診断できる時代へと突入しました。レビー小体型認知症を診断する上で、脳機能検査以外にも情報を得ることが出来ます。実は交感神経末端の障害により心臓造影検査で心臓が造影されない所見も診断の一助となるのです。